

戸田康之さん『子どもの感性』（6月14日配信）

こんにちは。戸田です。

私はろう学校の教員をしていますが、子どもたちが戦隊ごっこをしている時にとっても面白いことがあったので、そのお話をしたと思います。

私が今いるのは幼稚部で、3歳～5歳の子どもたちが遊んでいます。私が受け持っているのは5歳児のクラスです。男の子が多いのですが、男の子はテレビの戦隊ものや仮面ライダーが大好きですよね。それを使った遊びをしようと、色々な仮面ライダーの画像を集めたんです。昔は仮面ライダーは1種類でしたよね。今は1シリーズに多くのライダーがいるんです。インターネットで検索して、ライダーの画像を集めました。9種類もいました。

その画像を子どもたちが見ながら好きなライダーの写真を絵に描き、お面を作ってもらおうと思ったんです。赤や青、黄色、ピンクなどいろんな色を塗ってお面を作って遊ぼうと準備をしました。プリントした画像、お面用の紙などを準備しておいたところ、子どもたちは大喜びです。青ライダーが好きな子は青を使ってお面を作り、黄色ライダーが好きな子は黄色のお面を作って戦いごっこをしていました。

そんな時、ある男の子が「ピンクで作りたい」と言って希望通りピンクのお面を作っていたのですが、その子が「悪い、悪い」と言うのです。私はなぜそんなことを言うのかと思い、仮面ライダーはいい人なんだよと言ったのですが、やはり「悪いんだ」と言いながら作っていました。私は初め、意味がわかりませんでした。「悪い」って何だろうと。仮面ライダーは、悪役を倒すヒーローじゃないですか。それなのに彼は悪い悪いと言いながら楽しそうにお面を作ってたんです。さらには、そのお面で友だちと戦い始めました。ライダー同士は仲間であって戦う相手ではありません。先生が悪役だから、先生を倒すんだよと言っても、彼はライダーのお面をかぶった友だちを相手に戦っていました。

なぜそんなことをするんだろうと思い、下校の時に彼のお母さんに、彼はどうしてそんなことを言うのか聞いたんです。するとお母さん曰く、彼は仮面ライダーのテレビ番組を観ていない、と。それで分かりました。彼は仮面ライダーを見ておらず、画像のライダーの色を見て赤や青や黄色のライダーはいい役だと思い、ピンクは悪役だと勘違いしていたんです。彼は悪役をやりたいかったということだったんです。そんなことは初めてでした。

今まで子どもたちはヒーローをやりたいがるのが当たり前で、悪役になりたがる子なんていませんでした。彼は悪役をやりたいくて、あえてピンクのライダーのお面を作り、お友だちに戦いを仕掛けて遊んでいたんです。そんなことは今までありませんでした。悪役になりたがる子もいるんだと新たな発見でした。

お母さんと話した次の日、私はもうひとつの画像を準備しました。テレビに出てくる悪役の画像を検索してデータを作りました。黒くていかつい悪役の画像をいくつも準備しました。

仮面ライダーの画像と両方出しておいたところ、彼は悪役の画像を見てこっ

ちを描きたいと大喜びです。さっそく悪役のお面を作ってライダーたちと戦っていました。

彼だけではありません。女の子たちも「猫の悪役やりたい！」とお面を作っていて、悪役のお面を作る子と仮面ライダーのお面を作る子に分かれて戦いごっこをしていたんです。

でも、その後何回かやるうちに彼もライダーがいいと言うようになりました。赤や青のライダーや、悪役のお面も作ったりしています。

子どもって面白いですね。今までは、子どもはヒーローをやるもので、先生が悪役になって戦う、ということばかりでした。今は、子どもでも悪役になりたがるんだと分かり、面白いなと思いました。